

体外受精は癒着胎盤の独立した危険因子となる

In vitro fertilization as an independent risk factor for placenta accreta spectrum.

Salmanian B et al

Am J Obstet Gynecol 223:568.e1-e5, 2020

背景 癒着胎盤は母体の不良転帰となることはよく知られているが、その病態生理については明らかではない。体外受精は癒着胎盤の危険因子である可能性が報告されている。

目的 体外受精は癒着胎盤の独立した危険因子であるという仮説に基づき検討した。

方法 本研究は、米国テキサス州のBaylor医科大学で行われ、2012～2019年における三次高度医療機関での分娩を対象に後ろ向きコホート研究を行った。癒着胎盤を予測する潜在的な危険因子に対して単変量解析を、また、帝王切開、前置胎盤、年齢、妊娠出産歴などの危険因子を調整した多変量解析を行い、癒着胎盤の発生するオッズ比(OR)を検出した。

結果 37,461件の分娩につき検討した。5,464件(15%)に帝王切開の既往歴があり、281件(0.7%)は前

置胎盤、571件(1.5%)が体外受精による妊娠であった。癒着胎盤の発生頻度は230件(0.6%)であった。癒着胎盤の独立危険因子は、体外受精[OR 8.7, 95%信頼区間(CI) 3.8～20.3]、帝王切開の既往歴(OR 21.1, 95%CI 11.4～39.2)、前置胎盤(OR 94.6, 95%CI 29.3～305.1)であった。帝王切開の回数を連続変数として調整した場合でも、体外受精の相関関係は認められた(OR 6.7, 95%CI 2.9～15.6)。

結論 今回の検討結果から、前置胎盤および帝王切開の既往歴と比較すると、相対的な臨床的重要性は小さいながらも、体外受精が癒着胎盤の独立した危険因子であることが示唆された。また、体外受精と癒着胎盤の間の病態生理学はいまだ明らかではない。

(愛知医科大学産婦人科学講座 岡本知士 抄)

Women's Health Initiative(WHI)のランダム化臨床試験の長期追跡における、閉経後ホルモン療法と乳癌の発症率と死亡率の関係性

Association of menopausal hormone therapy with breast cancer incidence and mortality during long-term follow-up of the Women's Health Initiative Randomized Clinical Trials.

Chlebowski RT et al

JAMA 324:369-380, 2020

背景・目的 乳癌に対する閉経後ホルモン療法の影響は、観察研究とランダム化臨床試験で見解が分かれており、いまだ未解決である。そこで、WHI studyにおける、エストロゲン+プロゲステロン併用療法もしくは、エストロゲン単独療法後の、乳癌の発症率および死亡率との関係を評価した。

対象・方法 対象は乳癌の既往がなく、乳房撮影で陰性が確認された50～79歳の閉経後女性27,347人。2つのプラセボ対照ランダム化試験の参加者であり、1993～1998年に米国40カ所の施設で登録され、2017年12月31日まで追跡された。子宮を有する女性16,608人のうち8,506人はCEE 0.625 mg+MPA 2.5 mg/日、8,102人はプラセボを内服した。また、子宮を有さない女性10,739人のうち5,310人はCEE 0.625 mg/日、5,429人はプラセボを内服した。CEE+MPA試験は中央値5.6年後の2002年に、CEE単独試験は中央値7.2年後の2004年に終了となっている。

結果 対象者27,347人(登録時の平均年齢は63.4±7.2歳)の98%以上で、累積追跡期間の中央値20年超の死亡情報が得られた。子宮摘出後の女性10,739人に

おいてCEE単独療法群はプラセボ群と比較して、乳癌の発症率[238人(年率0.30%)vs 296人(0.37%)、ハザード比(HR) 0.78, 95%信頼区間(CI) 0.65～0.93, $p=0.005$]、および死亡率[30人(0.031%)vs 46人(0.046%)、HR 0.60, 95%CI 0.37～0.97, $p=0.04$]が有意に低かった。一方、子宮を有する女性16,608人において、CEE+MPA療法群はプラセボ群と比較して、有意に乳癌の発症率が高く[584人(0.45%)vs 447人(0.36%)、HR 1.28, 95%CI 1.13～1.45, $p<0.001$]、死亡率では有意差は認めなかった[71人(0.045%)vs 53人(0.035%)、HR 1.35, 95%CI 0.94～1.95, $p=0.11$]。

結論 2つのランダム化試験の長期追跡において、CEE単独群の女性はプラセボ群と比較し有意に乳癌の発症率、死亡率が低率であった。一方、子宮を有する女性では、CEE+MPA群はプラセボ群と比較し乳癌の発症率が有意に高率であったが、死亡率に明らかな差を認めなかった。

(愛知医科大学産婦人科学講座 守田紀子 抄)